

# ミクロネシア連邦と 日本との交流

NPOミクロネシア振興協会の活動



NPOミクロネシア振興協会事務局長

川嶋 正和

NPOミクロネシア振興協会の概要を紹介  
します。

特定非営利活動法人ミクロネシア振興協会  
(略称NPOミクロネシア振興協会 通称NPO  
AMD) は、2002年8月任意団体ミクロネシア  
振興協会を発展的に解消し、設立されました。

その現況は、会員115名(2011.9.10現在)で、  
その内ミクロネシア連邦の会員が24名です。  
任意団体期間を含めると14年間その活動に取  
り組んできた<千葉県認証とミクロネシア連  
邦政府認証のNPO>です。又当AMDは、昨  
年7月日本外務大臣表彰を受賞しました。

この稿の目的は、国際貢献についての報告  
でありますので、私たちの取り組んできた諸  
活動をご紹介させて頂くことにさせていただきます。

まず始めはAMDの基本スタンスについて  
です。それは“身の丈活動”と“継続”です。

そして設立趣旨は、①ミクロネシア連邦の  
経済的な発展に貢献②その為にまずミクロネ  
シア連邦の悠久の歴史を知り、地球規模の財  
産としての自然環境を愛し、伝統文化・歴史  
的な遺産を知り、更には現代の人々との交流  
を行う③そうした活動を通じて日本とのあ  
らゆる面での交流を重ねる

事で、太平洋に生きる地  
域の連帯・結びつきをよ  
り一層強め両国の相互理  
解をより深める事④相互  
の人的交流、特に子供達  
含めての人材育成にこそ、  
双方にあらゆる事柄での  
有益なものを生み出すと  
考え、その為の活動(子  
供達の相互交流、人材育  
成による産業の育成と活  
性化、自然環境との共生  
等々)を積極的に進めて

いく事です。

それでは具体的な活動と今後の取り組みに  
ついて報告します。Web (<http://www.amd-fsm.jp/>) もご覧頂ければご理解のお役に立  
つと思います。まずは、ミクロネシア連邦の  
概要から入ります。

#### 正式国名ミクロネシア連邦

(The Federated States of Micronesia)

首都ポンペイ州パリキール。

1986年11月3日独立、位置・面積・人口・  
位置：北緯0°~14°、東経135°~166°(カ  
ロリン諸島)。

陸地面積：701km<sup>2</sup>(東京ドーム157個分、  
琵琶湖とほぼ同じ) 海域面積：298万km<sup>2</sup>(環  
礁内面積・7,000km<sup>2</sup>、宮城県とほぼ同じ) 島  
嶼数：約600(有人島65)、人口：2000年10  
万7,008人(約1%増/年)、地勢：中西部  
太平洋カロリン諸島に属し、東側からコス  
ラエ、ポンペイ、チューク、ヤップの4州  
で構成されている。南にパプアニューギ  
ニア・ソロモン諸島、西にパラオ・インド  
ネシア、東にマーシャル諸島・ハワイ、北に  
グアム・サイパンそして日本。



## I. 経済の自立を図る為の支援活動として人材育成のための提案をする。

### 1. 生産性本部設立の提案

経済的な自立を図る第1歩は、人材育成にあり、それには生産性運動の提唱が有効として、具体的な活動を展開。チューク州（1999年3月）とポナペ州（1999年7月）知事とAMDとの間にて生産性本部設立に関する覚書交換。

## II. エネルギー&環境に係わる事業

### 1. 垂直軸型風力発電機の共同開発

ミクロネシア連邦（以下FSM）テレコム社と日本の企業、コーディネーター&共同開発者としてのAMD、3者にて遂行されました。開発期間は3年間。＜目的＞はテレコム社がFSM国内に展開している携帯電話等の無線中継基地の補助電源として活用する為のものです。メイン電源はソーラーです。



### 2. 共同開発した垂直軸型風力発電機

共同開発した風力発電機は、チューク州とヤップ州に設置され、現在も順調に稼動している。

### 3. 風力発電とソーラー発電のハイブリッドタイプの電源を持つ照明灯の設置（寄贈）

大統領官邸と大統領公邸前に設置（2008年11月～2009年7月）。チューク州モエン島ザビエル高校の校庭への設置（2008年11月～2009年7月）。

### 4. 廃棄自動車・生活ゴミに関する活動

廃棄自動車に関する取り組みを行うも中断中。

## III. 物産を軸とした直接的な経済的な効果と雇用の場を作る支援活動

### 1. ノニジュースの開発と日本等への販売支援

目的はノニジュースの製造によって、ポンペイ島の人々に現金収入の道が出来ることとジュース製造現場での雇用の発生が生じることを目的としています。

### 2. 塩、パンの実の製粉、青パイヤの漬物等のメイドイン・ミクロネシア製品開発と販売

### 3. 農業支援に取り組む最新の取り組み

無農薬、有機栽培による農業への支援活動に取り組んでいます。現在進行形。

## IV. 高中小学生・生徒への学用品&野球・サッカー・ラグビー機材等の支援

### 1. コクヨ株式会社からノート寄贈を受けて、公立の高中小学生・生徒へ支援（第1回）

公立校高中小学生・生徒への学用品支援、全生徒数、2004年3月時点26,885名公立校175へノート。コクヨ株式会社より50,000冊のノートの寄贈を受けて展開。

2. コクヨ株式会社からノート10,000冊の寄贈を受けて、公立高中小学生・生徒へ支援（第2回）

## V. 訪問者を送り、ミクロネシア連邦の素晴らしさを知ってもらい、観光客の誘致に貢献する

### 1. 観光事業への貢献

訪問団、諸活動の取り組みの訪問に際しても観光をするなど訪問先への経済に貢献。2011年8月現在、通算48次訪問団を派遣。延べ訪問者凡そ420名。

### 2. ミクロネシア連邦の宣伝活動

5回のミクロネシア連邦写真展の開催：7,000名程度鑑賞。4回のミクロネシア連邦物産展・料理フェアの開催。国際食料展及び国際旅行博への参加並びにミクロネシア連邦からの出品者支援。

## VI. ミクロネシア連邦の宣伝活動

### 1. ミクロネシア連邦支部設立

2004.11.2 AMD  
ミクロネシア連邦支部（FSM：NPOミクロネシア振興協会）への連邦政府によるNPO認証と登録。

### 2. 災害支援活動

2003.3.24チューク州チューク環礁トノアス島（旧称・夏島）台風災害支援の実施。支援米10t、463家族に40ポンドの米3,981.8\$相当。



## VII. 千葉県国際協力・多文化共生モデル事業（H18年度、H19年度）を完遂

1. 垂直軸型風力発電機共同開発に伴う支援事業（2006年8月—2007年3月）
2. ミクロネシア連邦ノニ製品製造支援事業（2007年8月—2008年3月）

なぜミクロネシア連邦か……そこに多くの日系人がいた。人口比率は30%を超えていると言われています。世界各地の日系人比率で一番と聞きます。日本との係わりは、第1次世界大戦の戦勝国となった日本が、敗戦国ドイツの植民地であったミクロネシア地域を国際連盟の委託・委任統治領となったことです。日本人との係わりは、明治時代にさかのぼります。その係わりで言えば“冒険ダン吉”のモデルとなった森小弁翁が有名です。現在の大統領は、その子孫です。

私たちAMDは今人材を求めています。無農薬、有機栽培による農業への支援活動に取り組んでいます。この協力者も求めています。ご連絡下さい。